

# 「必見!“選ばれる園”となるためのヒントを探る」が開催されました。

園長・施設長・主任講座を集合型研修の良さ(対話型、双方向性)を適宜取り入れて、オンラインで開催しました。

開催：[ライブ配信]令和3年8月30日  
[ビデオ配信]令和3年9月6日～13日



## プログラム

### 基調 講演

## 「次世代を見据えた園を創造する」

講師：馬場耕一郎先生（社会福祉法人友愛福祉会理事長、内閣府子ども・子育て本部上席政策調査員）



**少**子高齢化がますます進む日本では、入園児数の減少による定員割れや運営費の減収といった、経営上の問題に直面する園が増える予想されます。家庭とは異なる、「園ならではの役割」がさらに求められることとなります。選ばれる園になるには、保護者に向けた「園の情報の発信と更新」を積極的に行いつつ、園内では保育の土台となる「養護の担保」と「保育の質」を改めて見直すことが大切になると言われます。そうした中で、子どもたちが心身ともに充実した園生活を送るためのキーワードは「豊かさ」。今一度「自分たちの園の豊かさとは？」を考えることは、選ばれる園づくりのヒントにもつながる、と思います。

### テーマ 1

## 「幼少期の『原体験』を豊かに ～季節の行事の役割～」

講師：すとうあさえ先生（童話作家、一般社団法人日本児童文芸家協会専務理事）

**パ**ソコンやスマートフォンが当たり前存在する現代の子どもたちは、自然にふれる原体験（＝五感を駆使した直接体験）が不足しがちです。日々の生活で体験する自然への「なぜ？ どうして？ すごい！ へ～！」という感動や驚き、小さな気づきの積み重ねが、子どもたちの「生きる力」を育む原体験として大切です。日本の年中行事は自然に根差したものが多く、原体験をつくるチャンスになります。行事の由来を子どもたちに教えることが目的ではありません。皆で端午の節句に花菖蒲の匂いをかいだり、七夕で笹の葉の揺れる音を聞いたりすることが原体験につながります。家庭の行事が減ってしまうなか、園の行事は今後ますます重要となってきます。

